

序

本書は、羊土社レジデントノート2013年2月号の特集で、「自信をもって診る！女性の腹痛～Part1：産科・婦人科疾患を見逃さない！／Part2：女性患者にやさしい診察のコツ～」が好評であったため、それらに加筆・修正を行い、新規項目も追加して内容を充実させたものである。後期研修医や初期研修医のみならず、研修を終えた総合診療医や産婦人科以外の専門医、指導医、メディカルスタッフの方々にも、日々の診療で、参考にしていただけることを期待している。

女性患者を診るときには、女性特有の病態・疾患を意識して鑑別診断とマネジメントを行うように、常に注意していることと思う。特に総合診療／プライマリ・ケアでは、症状が出始めて間もない時期、兆候が出そろっていない時期に診察をする機会が多く、後になってみれば容易に診断のつく疾患でも、早い段階では難しい場合がある。しかし、すぐには診断に至らなくとも、鑑別診断を十分考慮しながら細かく丁寧に経過をみることで、情報が増え、適切な診断とマネジメントにつながりうる。また、救急の場では、緊急性のある疾患を的確に診断、また除外することが最優先となる。

本書ではまず、第1部は女性を診察する際もっとも注意が必要な「腹痛」を中心に取り上げ、腹痛をきたすさまざまな女性特有の疾患について病歴、身体診察、画像検査などの所見に習熟することで、緊急性のある疾患を鑑別するうえで役立つ内容とした。第2部は単行本化にあたり新たに設けたセクションであり、周産期救急や性行為感染症、月経に関する問題、更年期障害、乳房の問題など女性診療で重要なトピックを取り上げた。もちろん他にも重要なトピックは多くあり、女性診療を網羅するには決して十分とはいえないが、最低限知っておきたい内容である。第3部では、女性患者の診察面で注意すべき事項として、診察時の注意、妊娠中・授乳中の投薬や検査の注意、ドメスティック・バイオレンスなどをまとめた。本書を一通り読むことを通して、読者の皆さんにとって、女性診療への自信が増し、さらなる学びを進めていこうと思われるきっかけになれば幸いである。

2015年1月

井上真智子